



自衛隊ヘリによる夜間離発着訓練で、患者に見立てた人形を搬送する熊本総合病院の医師ら＝25日午後7時40分すぎ、八代市（高見伸）

夜間災害でヘリ訓練

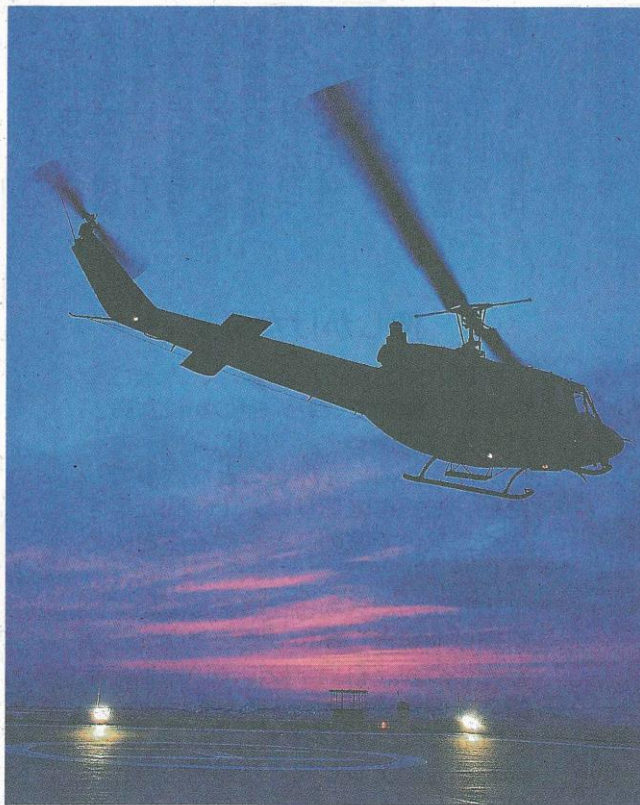
八代市の総合病院 陸自と合同

八代市の熊本総合病院が、ドクターヘリなど院で25日夜、同病院とは昼間しか飛ばない陸上自衛隊西部方面航空隊（益城町）が、夜間の災害発生時の患者の救急搬送に備え、同航空隊ヘリコプターによる離発着訓練を初めて合同で行った。

14階建ての同病院の屋上には夜間照明を備えたヘリポートがある

訓練は球磨郡一帯を震源とする大地震が発生し、同病院に病人やけが人をヘリで運び込むという想定で実施。高遊原分屯地から飛来した多用途ヘリが、周辺の障害物や進路の状況を確認しながら離発着を繰り返す。同病院の医師や看護師と、患者に見立てた人形を受け渡す訓練を行った。

示野康晴・同航空隊本部第3科長は「安全に離発着できる確認ができた」、島田信也・同病院院長は「夜間の災害にも対応し、救命に貢献していく」と述べた。（平井智子）



映画の1シーン？

日没を迎えた25日午後7時半ごろ、八代市の熊本総合病院の上空には、濃紺をバックに、筆で描いたようなグラデーシヨンの夕焼け雲が浮かんでいた。

「ブルーアワー」と呼ばれる時間帯。この日、同病院では夜間の災害発生を想定した陸上自衛隊西部方面航空隊と

の合同ヘリコプター離着陸訓練が初めて実施された。ライトに照らされ、プロペラ音をとどろかせて飛び立つヘリ。まるで映画の1シーンのようだった。（高見伸）

かごみち
活写道

随時掲載

2017.5.29